

平成28年度 第2回, 第3回 京都市自殺総合対策連絡会
ワーキンググループ会議 報告

1 目的：京都市自殺総合対策推進計画（きょう いのち ほっとプラン）の評価を行い，京都市自殺総合対策推進計画（きょう いのち ほっとプラン）の改定について，検討を行う。

2 構成団体・機関：

学識経験者	中山会長
地域	京都市PTA連絡協議会
企業・職場	独立行政法人労働者健康安全機構 京都産業保健総合支援センター
保健医療機関等	(公社) 京都府看護協会
司法等	京都弁護士会
関係団体等	こころのカフェきょうと（自死遺族サポートチーム）
京都市	教育委員会 指導部生徒指導課 保健センター
事務局	保健福祉局 こころの健康増進センター 保健福祉局 障害保健福祉推進室
オブザーバー	文化市民局 勤労福祉青少年課 保健福祉局 長寿福祉課

3 会議内容

第2回会議 平成28年10月28日（金） 10:00～11:30

<検討事項>

- ・第2次京都市自殺総合対策推進計画（きょう いのち ほっとプラン）素案

<御意見>

- (1) 指標について，200人は死んでもよいと感じる。本来は「ゼロ」を目指すということが大前提で，検証のためには目標が必要であることから数値を掲げていく方法がよいのではないかと。
- (2) 最近マスコミで取り上げられているような長時間労働や，過重労働，パワーハラスメント等，職場における問題についても表記していただきたい。
- (3) 企業自体が人を働かせすぎることにより，多くの人がうつ病等で休職し，労働力の低下を招き，最終的には企業自身のマイナスになっている。企業自身の意

識改革もしていく必要がある。

- (4) 地域づくりということだが、地域のネットワークが壊れつつある。個人情報保護のこともあり、子どもたちに関する保護者同士の連絡は、学校をとおしてしかできない状況である。両者のバランスをとるのが難しい。
- (5) 自殺のサインについて、サインは気づかないこともある。サインに気づけなかったことが罪悪感につながる。遺族にとっても「サインに気づく」と表現されることで、自分はなぜ気づけなかったのかと追い詰められると感じる。サインはわかりにくいものであるが、気づくことができるよう研修が必要だと述べられるとよいかもしれない。
- (6) 計画書には、議論の結果だけでなく、議論の経過もどこかに示してほしい。
- (7) 関係機関の相互連携の強化について、身になる連携、ネットワークというものをつくってほしい。
- (8) 自殺の問題はネガティブで厳しいことだが、生きることを包括的に考えることとして前向きなメッセージを入れられないか。

第3回会議

平成29年2月16日（木）10:00～11:30

<検討事項>

- ・京都市自殺総合対策推進計画（きょう いのち ほっとプラン）改定計画案について

<御意見>

- (1) 子ども若者はぐくみ局ができるとのことだが、これまで集約されているものが、分かれてしまい、情報共有することができず複雑にもなるのではないか。また、京都市地域自殺対策推進センターができ、相談窓口ができるとなると、どこに誰が相談すればよいかわからなくなるのではないか。
- (2) 孤立し、切羽詰った状態で、唯一何かの情報を得て相談に行ったときに話を聴いてもらえなければ、二度と相談にいかなくなるのではないか。そのためにも、ワンストップで相談できるよう対策をしてほしい。また、相談を受ける側もしんどくなるため、そういう人が窓口で相談してもいいということをどこかにいれてほしい。
- (3) なぜ死んではいけないのか、なぜ生きてほしいのか、というメッセージをどこかに入れてほしい。
- (4) 前回の計画より、充実したものがあると思うが、どうやってまとめていくか。全ての取組は関連しているので、具体的な政策に落とし込むときに工夫をしてほしい。
- (5) 障害保健福祉課（仮称）が自殺対策の身近な窓口となっている。行政として対策をしてくれればよいと考えてはいるが、以前、ある自死遺族支援団体では障害者対策として扱われるのに不満といった声もあった。自死遺族が抱えている問題は生きにくさという障害を含めた問題という話を聞き、印象に残っている。

- (6) 効果的に広報することが必要である。多くの取組を知ることは切羽詰った状況では難しいので、戦略を練ってほしい。また、計画を広報する際も、PR版を作成する等工夫してほしい。
- (7) 自殺未遂者支援について、本人と家族は立場が違うため、支援は別々にしたほうがよいのではないかと。未遂者支援として相談を受けている看護師等が自分で解決しようと無理する人も多いが、できる人に分担することが必要。それをうまく振り分けることが本当の連携である。
- (8) 自殺未遂者は既遂率も高く、自死遺族の自殺の可能性が高い。ハイリスク者への支援を何とかしていただきたい。
- (9) 推進体制については、市民がどのような関係性の基に支援されているかはよくわかるが、市民が悩んだときにどのようにつながるのか、わかりやすいものがあったらよいのではないかと。